

聖書日課 『からし種』 2023.10.29-11.5

<p>10月29日 (日) ヨブ記 26章</p>	<p>「神についてわたしたちの聞きえることは なんと僅かなことか」(14節)。前章のビルダドの言葉に対して、ヨブは「誰の言葉を取り次いで語っているのか。」と批判した。ヨブは神についてわたしたちの知っていることは僅かなことなのだ、と話した。わたしたちには福音書で語られているイエス・キリストを通して神の愛を知らされている。</p>
<p>30日 (月) ヨブ記 27章</p>	<p>「破滅が洪水のように彼を襲い／つむじ風が夜の間にさらう」(20節)。このようにヨブは息子たちと娘たちが、大風によって一瞬のうちに倒れた家に押しつぶされて死んだことが、脳に焼き付いていて離れなかった。しかし「この唇は決して不正を語らず、この舌は決して欺きを言わない」(4節)。どこまでも無垢なヨブであることがわかる。</p>
<p>31日 (火) ヨブ記 28章</p>	<p>「そして、人間に言われた。『主を畏れ敬うこと、それが知恵／悪を遠ざけること、それが分別』」(28節)。ヨブは知恵について語る。知恵は金や銀、どんな宝石を積んでも買うことはできない。「では、知恵はどこから来るのか」(20節)、その答えが冒頭の御言葉。「主を畏れ敬うこと」これを私たちも大切なこととして心に留めたい。</p>
<p>11月1日 (水) ヨブ記 29章</p>	<p>「どうか、過ぎた年月を返してくれ／神に守られていたあの日々を」(2節)。「あゝ、全能者はわたしと共におられ／わたしの子らはわたしの周りにいた」(5節)。なのになぜこうなってしまったのか。神がサタンに唆されて起こったのである事を知らないヨブが哀れに思う。彼は全ての人に善をおこなった素晴らしい人であるのに理不尽だ。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.10.29-11.5

<p>2日 (木)</p> <p>ヨブ記 30章</p>	<p>「わたしは知っている。あなたはわたしを死の国へ／すべて命あるものがやがて集められる家へ／連れ戻そうとなさっているのだ」(23節)。ヨブは神がこうされようとしていると言うが、それは違う。神はヨブがどこまでも求め従ってくるのを見ておられる。だが、ヨブとしては、きつい状況下で、神からの直接の応答を願うしかないのだろう。</p>
<p>3日 (金)</p> <p>ヨブ記 31章</p>	<p>「正義を秤として量ってもらいたい。神にわたしの潔白を知っていただきたい」(6節)。神はあまりにも完全なヨブの正義と潔白を知っていた。それを天使たち(サタンもいた)が集う会議で自慢したことからサタンの挑発を受けこのような惨劇が起ってしまった。ヨブが完全で無垢であったことが仇となった。こんな事があっていいのだろうか？</p>
<p>4日 (土)</p> <p>ヨブ記 32章</p>	<p>「ヨブが神よりも自分の方が正しいと主張するので、彼は怒った」(2節)。ずっとヨブと3人の話を聞いていたエリフは怒って語り出した。彼は若輩者なので意見を控えていたが、3人の友がヨブに罪ある事を示せなかったことでも怒った。悟りを与えるのは全能者なのだから語っても問題ないと主張した。だが怒りからの発言が適切とは思えない。</p>
<p>5日 (日)</p> <p>ヨブ記 33章</p>	<p>「まことに神はこのようになさる。人間のために、二度でも三度でも／その魂を滅亡から呼び戻し／命の光に輝かせてくださる」(29-30節)。四人目の友人エリフの言葉は「正しい」。ただエリフに「決定的に欠けている」ものがある。それは不条理の苦難にもだえている者の傍らを共に歩む祈り。主イエスはその祈りを携え、私たちの間を生きてくださった。</p>